日本風力エネルギー学会　研究会　企画書

作成：黒岩　隆夫
所属：海上・港湾・航空技術研究所
2021 年 3 月 5 日

研究会名称	風車運用寿命延長技術研究会	
研究の目的, 期待される成果	目的：国内の風力発電装置は、設計寿命に近づいている個体が増加しているが、特段の異常はなく正常に運転を継続しているものも少なくない。このような風車が初期に設定されている設計寿命を超えて安全な運用が可能になれば、経済的な効果は大きい。本研究会では、高年次風車の残存寿命を推定し、運用寿命を安全に延長するための方策について多面的に研究する。 成果・運用寿命の延長による事業の経済性向上 ・リパワリング等の事業計画の精度向上 ・技術成果の、運用寿命に関するガイドラインへの反映 ・長寿命化が期待される洋上風力発電への技術成果利用	
体制		
主査/副主査	**会員氏名**	**所属**
主査	黒岩　隆夫 (洋上風力発電 PT ｻﾌﾞﾘｰﾀﾞ)	海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所
副主査	平野　晴彦（PRJ 本部部長）	日本風力開発
	飯田　誠（特任准教授）	東京大学
	松信　隆（技術企画　部長）	戸田建設
	嶋田　進（主任研究員）	産業技術総合研究所
	小川　路加（環境事業部長）	駒井ハルテック
	永尾　徹（特任教授）	足利大学
研究会の運営	産学共同で実施する。風車の寿命を支配する、ブレード、動力伝達系、ギアボックス、発電機、タワー、基礎等について、負荷荷重、残存寿命の推定技術、必要な対策等を知り、使用限界を知る。類似の研究を行っている IEA Wind Task 42, Wind Turbine Life Extension の活動にも注意を払う。	

予定・予算（原則発足から 2 年）

年月	**内容**	**費目・予算**
2021 年 3 月	メンバー公募	
2021 年 4 月	研究会発足	初年度　会議費等　15 万円
2022 年 11 月	JWEA シンポジウムで進捗報告	二年目　会議費等　15 万円
2023 年 3 月	学会誌特集号投稿	